

05'オーストラリアレポート

日時 平成17年1月20日(木)～2月17日(木)(28泊29日但し往路機内1泊)

宿泊先 コールスホテル(タスマニア、ホバート)2泊
グレートノーザンホテル(タスマニア、ロンセストン)3泊
クレードルマウンテンホテル
(タスマニア、クレイドル山)2泊
ヴィラ(ポイントロンズデール)15泊
スーザンさん自宅(メルボルン)5泊

同行 4人(佐々さん 佐野さん 我々夫婦)

費用 タスマニア旅行一括 82,000 円/人(1,000AUD)

航空券 61,000 円/人(除く関空使用料等)HIS手配(関空～MEL)

宿泊料 123,000 円/2人(1,500AUD)3週間(ヴィラ)

レンタカー(オーナー所有分) 22,550 円/2人(275AUD)

総費用概算 600,000 円/2人

航空会社等 キャセイパシフィック(通用1ヶ月未満で最安値 FIX)

往路 関空 1月20日18時20分発 香港経由

メルボルン 1月21日11時45分着

復路 メルボルン 2月17日8時55分発 香港経由

関空 同日21時着

目的 オーストラリアでのロングステイの適、不適の判断

別荘での生活の実態を体験

タスマニアでの世界遺産の見学

結論 ゆとり、安全、ルールの遵守、人の優しさ、街の美しさは大変良い

インフォメーションセンター、レストラン、その他町の中でも、よく話しかけられ、片言の日本語で挨拶をされたりと対日感情は良い

消費者物価においては日本と同等か少し安い

但し住居の費用については高級別荘を借りたことで相当高くついた

結論では金銭面、特に住居費用が高く我々の年金では無理か？

その他 1AUD(オーストラリアドル)=約82円で計算。

最も有利な持参通貨については日本円のトラベラーズチェック(T/C)だった。

今回のバスでのタスマニアの旅行については、現地の日本人経営の旅行会社AJPRに依頼したので安く、且つ安心の旅行ができた。

タスマニア8日間、残りの3週間はメルボルン市内とメルボルン近郊の別荘の滞在につき、オーストラリア全体の雰囲気及び費用面についてはつかみきれていないのでは無いと思われる。

国が新しく、面積も日本の約2.1倍、人口は日本の12分の1なので建物や街は美しく、道路も広く車も少ないので運転しやすく、一般道でも郊外では制限速度は時速100kmのところが多い。道路は碁盤の目の如く整備され、各道には総てに名前が付けられているので大



グレートオーシャンロード 12使徒

変判りやすく、地図を見ていれば迷うことはあまり無い。街には木は余りないが芝生の植わった広い公園が多くありゆとりが感じられた。家は庭を広くとり平屋が多い。郊外に出ると道路の両側は広い牧場ばかりでゆったりした気分になれる。

今は夏なので 1 時間のサマータイムがあるが、それでも夜は短く午後 9 時ごろまで明るく、日本での感覚と全然違って来る。

宿泊に関しての交渉、連絡はヴィラの現地オーナーとの英語によるメールでの直接連絡に付き、苦労はあったがそれなりの成果と親密度は増したと思われる。

レンタカー走行距離 約 3,000km

1月20日(木)

13:42 発 新快速で大阪経由 関空 14:55 着

16:20 発 キャセイにて香港 21:45 着 23:40 発

1月21日(金)

11:45 メルボルン着 入国時検査は食物の持込み等は相当厳しいと聞いていたが、スムーズだった。国内線に乗換。

14:20 メルボルン発 15:30 ホバート着 ジェットスターにて。E チケットなので航空券はなくパスポートの提示のみで搭乗券が発行された。

タクシーにて**コルスホテル**へ、その後サランカプレイスの AJPR 事務所にて千々岩さんに面談、今回の旅行の明細及び現地の情報を聞く。

夕食は海辺のレストランにて、生牡蠣などを食べた。新鮮でおいしかった。

1月22日(土)

日本人ガイド森川さんによる近郊観光とサランカプレイスの**土曜朝市**に行く。

朝市は広くて、整然として、賑やかで楽しかった。皮の帽子 35AUD 他購入。

リッチモンドではコール川に架かる 1,823 年に建設されたオーストラリア最古の石橋**リッチモンドブリッジ**と、同じく最古の**セントジョンカトリック教会**を観光。ブリッジは周囲の景観ともマッチして大変趣があった。

監獄の町として有名なポートアーサーで昼食後**流刑場跡**を見学。冤罪や微罪で入獄され理不尽な扱いと労働により開拓に狩りだされた人達の監獄だ。

夕食はカンボジアン食堂にて中華料理をテイクアウト、31AUD(4人分)。



ポートアーサーの刑務所

1月23日(日)

バスツアーの開始。ホテルから 10 分の所にあるバスステーションへスーツケースを持って行く。途中で**フレシネ国立公園**に行くバスに乗り換える。

バスの終点から、きれいな曲線をもつ海岸**ウィングラスベイ**を山頂から見るために、往復 1 時間の

ウォーキングと山頂で 1 時間の休憩をした。ウォーキングは一山を越えるため相当きつかったが、頂上からのワイングラスベイの眺めは素晴らしく疲れを忘れさせてくれた。また近くの真っ白な白浜の海岸を散策した。ロンセストンへ行くまでに、アニメーション映画「魔女の宅急便」のキキの店のモデルになったと言う噂のあるベイカリーのあるロスと言う街の近くを通ったが、この噂の信憑性は？



フレシネ国立公園 ワイングラスベイ

夕方 6 時ロンセストンの **グレートノーザンホテル**

に到着。バスがホテルの前に横付けしてくれた。長距離バスは到着時に大概ホテルの前まで来てくれるそうだ。大きな荷物を持っている長距離旅行する人が多いため便宜を図っているのかな。このホテルは高層で褐色のレンガの落ち着いた感じだ。街は落ち着いて綺麗な建物と整然とした道路がある。夕食はタイ料理店でパッタイ、トムヤンクンなどを食べた。費用は 4 人で 90 AUD だ。

1 月 24 日 (月)

午前 **カタラクト渓谷** を観光。驚いたのは街の中にも関わらず、すぐ近くにロンセストン最大の見どころである、自然の一杯ある美しい渓谷があることだ。行きは山を越える南側のジグザグトラックを歩いて公園まで行き、川の兩岸を結ぶチェアリフトに乗った。このリフトは兩岸の柱と柱の間（支点間距離）が世界一だそうだ。公園、プール、展望台、遊歩道となかなか楽しませてくれた。帰りは北側のカタラクト・メインウォークを歩いたが、良い散歩道だった。

午後は近くの **ロイヤルパーク** で寝そべってビールを飲みながらうたた寝をした。オーストラリアの公園では清涼飲料水は飲んでも良いがアルコールは禁止されているとか。夕食は各国の料理が安くボリュームのあるファーストフード店でライトビールを飲みながらゆっくりした。ここではレストランは少なく、また他の店と同様午後 5 時には閉店している所が多く、オーストラリアの豊かさは感じられるが、旅行者にとっては不便さを感じた。このファーストフード店はおそくまで営業しているので便利であり、またボリュームも多く我々日本人には 2 人で一人前を注文すれば十分であった。その後昼食でも重宝した。

1 月 25 日 (火)

朝 7 時、原生地域として **世界遺産 (複合遺産)** に指定されている **クレイドル国立公園** へ向け、ホテルから 10 分のところにあるバスセンターでタジーリンク社のバスにて出発。午前 10 時 **クレイドルマウンティンシャトルホテル** にチェックイン。このホテルは新しく気持ちの良いホテルだ。フィッシュアンドチップスの昼食をインフォメーションの隣の店で摂り **タブ湖** 周遊サーキットを歩いた。ボードウォークが整備され大変歩き易い。インフォメーションセンターで入山料を 1 日券 1 人 10 AUD で買うとタブ湖までのシャトルバスに何回でも自由に乗り降りができる。夕食はこのホテルのレストランでフランス料理を優雅に摂った。と言っても山の中なので他に食べられるところが無い。全員で 102 AUD だ。

1月26日(水)

今日はきついと言われていた **マリオンズ展望台**までを歩く。頂上付近は相当険しい所もあったが、展望台からの見晴らしは素晴らしく、眼下の**ダブ湖**、彼方の**クレイドル山**、足下の**クレイター湖**ほか沢山の湖、湿原など登って来る値打ちは十分にあった。

午後は**スネイクヒル**からヴィジターセンターまでのボードウオークを歩く。

夕食は今日もホテルで優雅に？摂った。4人で90AUD。

1月27日(木)

クレイドル国立公園最後の日。朝からヴィジターセンターから20分間くらいの**フォールアンドレイنفォーリストウオーク**、同じく20分間くらいの**エンチャーテッドウオーク**、そして**キングビリーウオーク**を歩く。

キングビリーウオークは往復約2時間の鬱蒼とした温帯雨林の中を歩くが、今回の雨林ウオーキングの中ではこのキングビリーウオークが一番良かった。

午後2時40分のバスでロンセストンの**グレートノーザンホテル**に午後5時45分に到着。夕食は例のお気に入り？のファーストフード店にて。



世界遺産 クレイドル山とダブ湖

1月28日(金)

タクシーにてロンセストン空港へ。ジェットスターで9:05発メルボルンに10:05着。ヴィラのオーナー、スーザン・ラタリーさんの迎えあり。彼女はこの近くで歯科医院を経営している50代後半のしっかりした独身女性だ。

昼食はメルボルンの中心街のインド料理店**ニランカ (NIRANKAR)**にてご馳走になる。このレストランはスーザンさんがよく利用しており又同居者のミャンマー人のペギーさんが責任者である店である。

昼食後近郊の観光地等を聞き、詳細な地図と三菱自動車のワゴンのキーを借りヴィラへ出発。途中まで一緒に同行してくれた。**ポイントロンスデール**に着いたが佐野さんの去年来の記憶で漸く無事家の中に入れた。

部屋は3室とコンピューター室、食堂、リビング、トイレ2個、シャワールーム2室、但しトイレ及びシャワールーム各1個は故障のため使用不可。庭の手入れは忙しいためか不十分だ。荷物を一応片付けて近くのスーパー・**イガ (IGA)**へ食材を買いに行く。ここでは地元のVBビール(VICTORIA BEER)なども買う。なお夕食当番は男女1組ずつでペアを組み一日交代で料理をすることにした。勿論我々夫婦と佐野佐々組だ。

1月29日(土)

朝小鳥のさえずりで目が覚める。近くの**クイーンズクリフ**、**バーウオンヘッド**、**ジーロン**の観光に行く。クイーンズクリフはこの近郊ではチョットした街でフェリー乗り場があり、昔からの建物やインフォメーションセンターもあり、ここでインターネット

もできる。

1月30日(日)

観光に出かけようとするスーザンさんより電話があり、今からこちらへ来てバーベキューで歓迎会をしてやろうとのことになって急遽予定変更だ。

スーザンさん、ペギーさん、それに愛犬のエリーが10時ころ来て庭でバーベキューだ。ペギーさんと佐々さんの3

人でクイーンズクリフへ買物に行く。今日は**日曜日**らしく沢山の人が来て賑やかだった。その後肉を焼くのは男の仕事とのことなので初めてであったが佐々さんと2人で焼いた。ビールを飲みながら肉や野菜を食べ、その後女性達は勇敢にも近くの海へ泳ぎに行った。僕も付いていったが水が冷たいので見物だ。



クイーンズクリフのスワンベイ

1月31日(月)

今日は空港へ行って、真邊さんが7日に来るので空港への道を確認し、17日の我々が帰る日スーザンさんが空港まで送ってくれる事になったので空港のホテルをキャンセルした、また空港からの帰途市内の観光をした。市内への帰途ガソリンスタンドで1日間の高速道通行の申込をした、10AUD。空港での車の送迎に関しての駐停車は、迎えは厳しく送りはそうでもなかった。真邊さんはPC室で寝ることになった。

メルボルン市内では中心地の駐車場に1日28AUDで駐車しスーパー・コールズ(COLES)で買物もした。コールズはオーストラリアでは有名なスーパーだ。

市内観光は先ずメルボルンの中心地である**フェデレーションスクエア**に行く。ここの広場には変わった様式の建築が色々あった。次にメルボルンの公園を代表する**フィツロイガーデン**に行き、大変美しい芝生の上で昼食を摂った。**キャプテンクックの家**や**温室**、**イングリッシュチューダーヴィレッジ(ミニユチアの街)**などを見た。またオーストラリア最大の**セントパトリックス大聖堂**にもはいったが建物は大きく外観は威厳があり、中のステンドグラスも大変綺麗であった。**無料のサークルトラム**に乗って市内のメインの部分を一週した。

2月1日(火)

今日はクイーンズクリフを散策した。約27,000歩も歩いたので少々疲れ気味。行きは半島北側の**スワンベイ**の散策道を、黒鳥を見ながら鉄道の終点までいった。この鉄道は余り利用されていないうえに列車も今風ではなく郷愁を感じさせる車体だ。帰りは半島南側の散歩道を通ったが、天気が悪くなり風もひどくなって砂ほこりが舞い上がり大変だった。

2月2日(水)

昨夜からの悪天候で車内の後部座席に雨水が入ってきたので、予定の**グレートオーシャンロード**への初日の観光は、女性達はキャンセルしたので、佐々さんとの2人で行くことになった。このロードはトーキーからワーナンプールまで250KMあり大きく3つのパートに分けられる。今日はその

一日目で**トーキー**から**ローン**までの美しいサーフコートのあるサーフコーストだ。美しい海岸を見ながらローンに着いた。昼食は海岸沿いの海鮮レストランで摂ったがなかなか美味しかった。その後**アースキンフォールズ**に行き、温帯雨林の森に入ったのでマイナスイオンの癒しを十分に感じた。淹もなかなか見応えがあった。

2月3日(木)

昨日から今日の未明までの雨によりヴィラの前の道路に水が30cmも溜まり、電気も停電になってしまった。初めは何故電気が点かないのかと思っていた。これでは電動のガレージは開かないし、車は冠水で外へも出れない。

午後になると道路の冠水も引いてきたので車で**ベラリン半島**の北部の観光に出かけた。海岸沿いの海の見晴らしは大変よく、広いオートキャンプ場(キャラバンパーク)も数箇所あった。ここのキャンプ場には沢山の大きなロッジ、シャワールームを備えたトイレ、充実した電気と水道の設備、広い通路などがありキャンプを十分に享受できる。オーストラリアではどこでも沢山の人がオートキャンプ生活を楽しんでいる様だ。

2月4日(金)

グレートオーシャンロード観光の二日目で**ローン**から**ラバースヒル(ポートキャンベル)**までの温帯雨林が多いオトウエイズ・ヒンターランドである。アポロベイでは近くの展望台から眺めた**アポロベイの湾**は素晴らしかった。行く予定の温帯雨林の**マイツレスト**は先日の暴風雨でクローズになっていたので、**シェリービーチトラック**を歩く。次に**ケープオトウエイ灯台**に行く途中で木上にいる野生のコアラを何度も見ることが出来て感動した。また単孔類のハリモグラが道路を横断しているのも観察することが出来た。灯台には入場料が高かったのでパス。



グレートオーシャンロードの野生のコアラ

帰途北上して森の中の高い位置より雨林が見られる**フライツリートップ**に行った。その後コーラック経由で、**プリンスハイウェイ**を通ったので早く帰宅できた。

2月5日(土)

今日はスーザンさんから推奨されていた近くの**エドワーズポイント**へウォーキングに行った。海辺を散策する道路が作られており、自然を取り入れたよい公園だ。

2月6日(日)

ビクトリア州で2番目に大きな**ジーロン**へ市内観光に行った。行く途中**ベラリン半島**のワイナリーを3軒回ってテイスティングをした。この近くのワイナリーも有名だそうだ。

ジーロンでは無料の綺麗な大きい**ボタニカルガーデン**と、オーストラリアの羊毛産業の歴史に関する展示を行っている**ナショナル・ウールミュージアム**を見て、**無料のバス**で市内の中心部を観光した。

2月7日(月)

真邊さんを迎えにメルボルン空港へ。その後市内にあるスーザンさんの医院に立ち寄った。医院は中心街の高級ホテルやブランドブティックのある**パリスエンド**にあった。全員で挨拶だけをして失礼した。我々3人はこの前と同じく公園、教会、を回った。

2月8日(火)

真邊さんと3人で**バーウオンヘッド**の散策をする。

2月9日(水)

グレートオーシャンロードの最終日。1番のハイライトだ。プリンスハイウェイを通り途中から南下し、スーザンさん推薦の**レストラン(クリス)**がたまたま見つかったので入ったがなかなかしゃれた店だ。その後再度**アボロベイ**の展望台に登る。

ハイライトである**ポートキャンベル**から**ワーナンブル**までのシップロックコーストを観光。最初の奇岩がある**ギブソンビーチ**へ海際にと降りて行った。

次は最大の見どころである**12使徒**だ。展望台から見る海に浮かぶ12個の奇岩はなかなかの見ものだ。南極から吹いてくる冷たい風と、同じく南極からの冷たい海水に洗われた断崖と、見事な様相を呈している大小様々な岩々は、見るものを自然のいたずらに目を見張らせた。その後複雑に入り組んだ海岸線が人を飲み込んでしまいそうに感じられる**ロックアート・ゴージ**を。この名前は



グレートオーシャンロードのロンドン橋

はこの沖合いで難破した船の名で、近くにはメモリアルと亡くなった52人の墓もあった。それから大きなアーチ状の島**アイランド・アーチウェイ**、細長く切り立った**ラゾルバック**、石灰岩が落ちて海中洞窟になった**サンダーケーク**など枚挙にいとまがない。少し西に行くと今度は**ロンドンブリッジ**である。ここはかつてダブルアーチになっていたが波の浸食により10数年前に真ん中が落ちて現在の姿になっている所だ。さらに西に行くと奇岩が見られる最後の景勝地である**ベイオブアイランズ**で、海中に奇岩が林立していた。でもここまで来るとみんな少々食傷気味になってきた。でも今日も大満足だった。その後北上してプリンスハイウェイを通り帰宅。プリンスハイウェイは大変便利で早く、3時間は短縮出来ただろう。

2月10日(木)

クイーンズクリフよりフェリーに乗り隣接する**モーニントン半島**へ、片道5人で65AUD、約40分の船旅だ。**ソレント**で下船しモーニントン半島国立公園で先端の**ポイントネピアン**まで相当長いウォーキング。メルボルンを守るためにこの海峡には、要塞跡(トーチカ)や砲台跡が沢山あり昔が偲ばれた。昼食はこの最先端で摂る。

昼食後ヴィクトリアではヤラバレーに次ぐと言われ40以上のワイナリーのある**レッドヒル**へ、ここで有名な**レッドヒルエステイト**で試飲と購入をする。このワイナリーは大変大きなブドウ畑を持っており、見晴らしもよかった。港までの帰途モーニントン半島が一望出来る**アーサーズシート**

へ、ここからの見晴らしも素晴らしい。

2月11日(金)

金鉱の町**バララット**へ。町の中心街にはコロニアルな建物や美術館があった。**ソブリンヒルズ**には、ゴールドラッシュ時代の町を復元したテーマパークがあり、砂金採りや鉱山ツアー、昔のままの姿で実際に営業しているパン屋、印刷屋、パブ等なかなか面白いところが多くじっくり見ているとすぐに時間が経ってしまう。また**ユーリカ**



レッドヒルのレッドヒルワイナリー

砦センターにはこの砦を舞台にした、英国政府の採掘税、採掘権の不合理に対して金鉱夫達が 1854 年に起こした反乱の歴史を、絵や記録の展示、オーディオなどで紹介している。

2月12日(土)

スーザンさんの招待により彼女の自宅に、今日から 17 日まで厄介になることになった。行くまでは本当に全員宿泊出来るのか不安であった。彼女の家はメルボルン市内の北東の静かな住宅街にある。2 部屋とパソコン室、リビング、キッチン、でそこに女 5 人男 2 人が寝るのだが窮屈なのによくまあ招待したものだ。何を考えているのか判らない。でも我々はオーストラリア人の普段の生活を垣間見ることが出来て大変よかった。家に着くとまず布団と荷物を入れると部屋は一杯だ。愛犬のエリーを連れて近くの公園を散歩したがこのときに、先日の 2 月 2 日の大暴風雨で街は未曾有の洪水と被害を受けたところがあるのを教えられた。川から 10 数メートルの高さまで水があがってきた現場をみせてくれた。夕食は以前食べたインド料理店で真邊さんの歓迎パーティを催おしてくれたが費用は当方で負担した。オーストラリアではワインの持込みは OK のようである。

2月13日(日)



スーザンさん宅にてすき焼きパーティー
はスーザンさんがすき焼きを御馳走してくれた。

女性達はコンサートに出掛けたので、佐々さんと二人で自然に近い雰囲気で見られる動物園**ヒールビル・サンクチュアリー**に行った。ここはカモノハシ、コアラ、ウオンバット、タスマニアンデビル、ディンゴ、エミュー等のオーストラリア独自の動物や昆虫が見られるところで、この様な動物園に行きたかったので満足した。

帰りにオーストラリアを代表するワインの生産地である**ヤラヴァレー**に行き試飲と購入をした。夕食

2月14日(月)

真邊さんが帰国のため空港へ送って行った。その後**ダンデノン丘陵**へ蒸気機関車パフィンビリーに乗るべく出掛けたが、今日は走っていないとのことなので、**スカイハイ展望台**やウィリアムリッケンツの、アボリジニの人達を彫刻した**サンクチュアリー**を見た。夜はスーザンさんの甥っ子の誕生

パーティーに参加した。

2月15日（火）

今日は**ワーブートン・トレイル**に行った。この近郊には、以前鉄道が走っていたが車社会のためか鉄道がすたれて廃線になり、その跡をトレイルにして馬、自転車、ウォーキングのコースにしている所か幾らかあって、その内の1つがこのトレイルだ。道幅が広く整備されていて、木々に囲まれ鳥のさえずりを聞きながら、散策するのはいいものだ。野生のリンゴやスモモを取って食べたりもした。全体は長いコースだが今回はその一部を3時間くらいで往復した。

帰りに又**ヤラバレー**に寄りワインの試飲と購入をした。

2月16日（水）

帰国の準備だ。掃除、洗車、スーザンさんへのワインやビールのお返し用にリカーショップでの買物、チャイナタウンでの夕食材料の購入等。

2月17日（木）

フライトが8:55 のため6時過ぎにスーザンさんの運転で空港へ。香港経由 21時無事帰国。関空到着後、飛行機の中にタスマニアで購入した帽子を忘れたので取りに戻るも、機内には入れない。入国審査官の話では一旦出ると戻れないらしく事務所に申し出るとのこと。こんなことは初めてだったので面食らった。

平成17年3月18日

高橋 琢也

恭子